

## 「根岸線沿線九条の会連絡会のつどい」

2015年07月12日

根岸線沿線には、平和憲法を守ろうと活動している「九条の会」がある。「磯子地域九条の会」「森九条の会」「洋光台九条の会」「港南台九条の会」「栄九条の会」「大船九条の会」の6団体は、それぞれの地域に根ざした独自の「草の根」の活動をしている。数年前から「連絡会」を持っていたが、私は協働の活動をしようと呼びかけ、昨年11月と今年の5月に新杉田駅、洋光台駅、港南台駅、大船駅の駅頭で宣伝活動をした。リレートーク、チラシ配り、署名集めの活動である。各会単独で行うとせいぜい4~5人のメンバーでの活動だが、協働すると毎回20名以上が集まり、力強く、互いに勇気づけられる。点が線になって、士気が上がり、成果も出る。

私も毎回、マイクを持ってリレートークをしている。イザヤ書2章4節の「彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない」という言葉、マタイ福音書26章52節の「剣を取る者は皆、剣で滅びる」という言葉などから、軍事力では平和は作れないと語っている。また、戦争がもたらす死の惨劇、殺し合う兵士たちが受ける精神的ダメージから平和の尊さを訴えている。

根岸線沿線九条の会連絡会は、安倍政権の強引な安保法案の法制化に抗議の意思表示をしようとして昨夜、新杉田駅前の「杉田劇場」で「つどい」を持った。「連絡会」のメンバーが知恵を出し合い、力を集めて、初めて企画した集会であった。入り切れないほどの大盛況であった。講師に慶応大学の小林節名誉教授をお招きした。「連絡会」のメンバーに小林教授と親しい方がいて、電話一本で講演を承諾してくださった。憲法審査会で「違憲」と発言され、以来、講演に引っ張りだこで、多忙を極めていらっしゃるらしい。小林教授は改憲論者だったが、安倍政権のやり方を見て、護憲論者になられたと言われる人で、それが更に、人々の関心を集めている。講演は「憲法を守る方法」と題して、安倍政権の危険性をユーモアを交えながら、厳しい言葉で指摘された。九条は侵略戦争の放棄、軍隊の不保持と交戦権の否認を謳っているが、専守防衛権は認められている。しかし、他国の軍隊と一体化した集団的自衛権は認めていない。政府が言う「存立危機事態」「重要影響事態」は意味不明の言葉で、政府の答弁も一貫性がない。自民党と公明党の連立政権は数においては圧倒的に強い状況にある。安保法案は決議される可能性は高い。だからと言って、失望することはない。国民世論を高め、野党協力によって政治状況を変えていけば、廃案にすることも可能である。戦争しない国、ODAの支援国である日本の「平和ブランド」は高く評価されている。安倍政権を退場させるための知恵、策略を練り上げること、また、諦めずに、抵抗し続けることが大切であると話された。

安倍政権は今週中に、安保法案の委員会審議を終え、衆議院に送り可決したいようだ。憲法学者の大半が憲法違反で立憲主義が壊れると言いき、国民の6割が反対している。また8割の人が法案の中身が分からないと言っている。米軍の戦争協力要請に応える法案だと言えば分かるが、子ども騙しのような譬えを言うから理解されない。腕白不良中学校の生徒会のような軽率極まりない答弁が続いている。国の在り方の根幹を変える法案だから、国民の大方の支持が必要であろう。それが得られないのだから、廃案が当然である。国民にとって不幸な人を総理大臣にした。また、外国からは、米国追従に走る、民主主義を知らない総理大臣だと笑われている。もし、国会で安保法案が可決されたら、即、憲法違反の裁判が起こるだろう。原告の一人になりたい。